周産期医療対応について

新潟市民病院 産科部長　倉林　　工

はじめに

COVID-19に対する周産期医療維持のための病診連携体制について新潟医療圏（新潟市の分娩取扱施設）での振り返りを行った。ただし、この報告では、後方視的検討、すなわち「あと出しジャンケン」というlimitationがある。

2020年４月21日には新潟県の主催で、COVID-19の感染拡大期における周産期医療患者に係る受入調整会議が行われ、「新潟県コロナウイルス感染妊婦への対応」決定事項のうち新潟医療圏に関する抜粋を表１に示す。保健所から要請があったコロナ陽性妊婦（以下、コロナ妊婦）の受け入れはまず新潟市民病院が対応することに決定した。新潟医療圏でのCOVID-19への対応を後方視的に以下の３期に分けて報告する。

第１期（2021年１月-2022年３月）

2021年６月１日に関係者でコロナ妊婦とくに自宅療養例への対応（新潟医療圏）を決めた。自宅療養のコロナ妊婦に関して、大学、済生会新潟病院以外のかかりつけ医は、当院に「連絡票」をFAXし、異常時は当院外来にて対応した。ここで重要なことは、かかりつけ医は妊婦に連日電話連絡して健康状態のチェックを行うことである。また、発症あるいは検査陽性後10日が経過し健康観察期間解除となった妊婦は、かかりつけ医で以後の妊婦健診・分娩管理を行うことを徹底した。2021年８月に千葉県柏市で妊娠29週の中等症のコロナ妊婦の受け入れ先が見つからず、結局自宅分娩にて新生児死亡となった痛ましい事件が報道された。この事件以降も、何か異常があれば当院での迅速な対応を行うとともに、かかりつけ医は自宅療養の妊婦に連日電話連絡して健康状態のチェックを行うことを再確認した。

第２期（2022年３月-2022年８月）

2022年３月中旬から自宅療養妊婦が急増したため（図１）、新潟市産婦人科医会の協力にて、産科的異常であれば可能な限りまずかかりつけ医が診察する体制に変更していただいた（図２）。３月以降も当院以外の自宅療養妊婦が増加しており、今思うと、この体制変更は非常にありがたかった。さらに2022年８月まで当院でのコロナ妊婦の分娩が急増した。2022年１月～

表１　COVID-19の感染拡大期における周産期医療患者に係る受入調整会議 2020年４月21日「新潟県コロナウイルス感染妊婦への対応」決定事項〈新潟医療圏に関する抜粋〉

A．コロナ感染陽性妊婦の取り扱い

保健所から要請があったコロナ陽性妊婦の受け入れはまず新潟市民病院が対応する。同院が対応できなくなった場合には、保健所が他医療圏域の感染症指定医療機関に支援を要請する。

※新潟大学病院は高度機能病院であり、感染症以外の重症疾患に対する新潟県の最後の砦であるため、原則コロナ陽性妊婦を受け入れない。ただし、県下の状況が切迫してきた場合はこの限りでない。

B．コロナ感染疑い妊婦の取り扱い

１）産科的異常所見がない場合：感染症指定病院に紹介せず、保健所または帰国者・接触者相談センターに妊婦が相談する。

２）産科的異常所見がある場合：（PCR検査結果を待てないほど切迫している場合には）輪番病院へ。

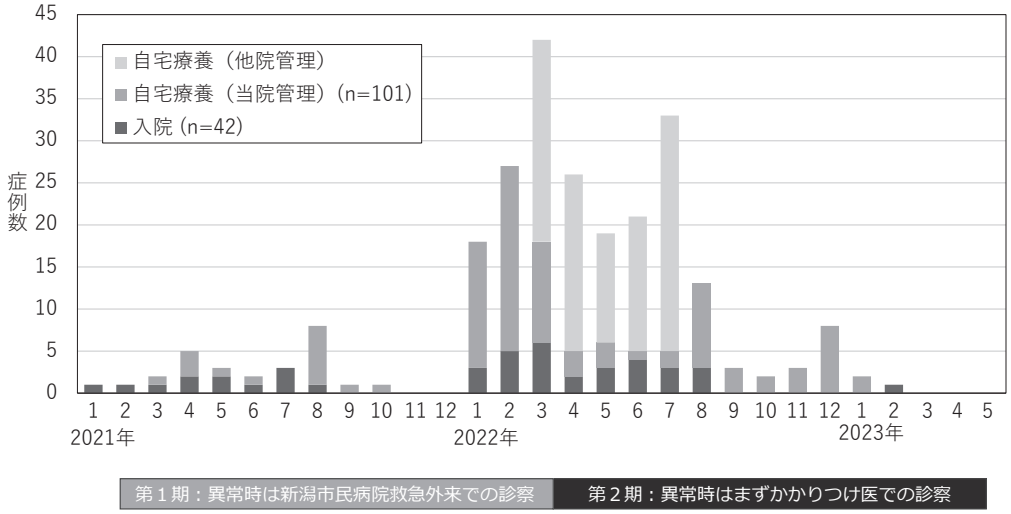

図１　新型コロナ陽性妊婦の月別入院自宅療養者（新潟市民病院 2021年１月～）

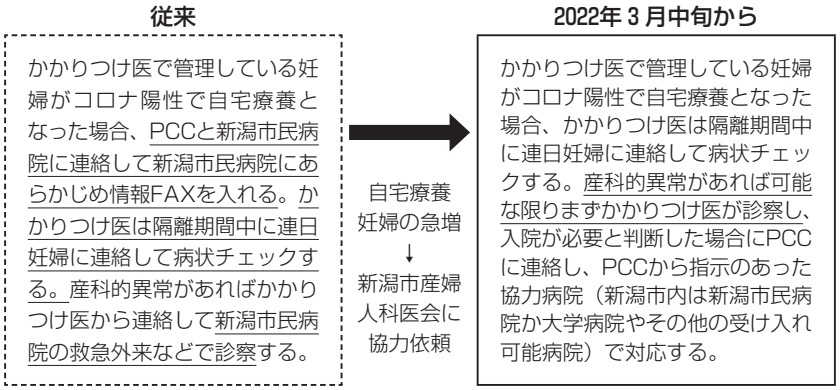

図２　新潟市内（新潟医療圏）における自宅療養体制の変遷

2023年２月まで当院でのコロナ妊婦の分娩・産褥対応症例18例で、当院での分娩14例（帝王切開９例、経腟分娩４例、16週死産１例）、他院で分娩後の産褥搬送が４例であった。コロナ妊婦の分娩様式（16週の死産を除く13例）を表２に示す。13例中12例が経産婦であり、帝王切開９例中５例はCOVID-19が適応で帝王切開を行った。しかし2022年６月以降はPPEなど十分な感染対策を行い原則経腟分娩の方針に変更し、４例が経腟分娩（うち２例は分娩後陽性が判明）となった。新生児の感染は１例もなく、母児の予後は良好であった。

第３期（2022年９月以降）

2022年７月頃から新潟県福祉保健部健康づくり支援課の支援もあり、コロナ妊婦のかかりつけ施設での分娩に向けた準備が行われた。かかりつけ医の分娩における課題が抽出され、課題への対応案が示された（表３）。2022年９月以降は、可能な施設から原則かかりつけ医での分娩へ移行していった。この試みは、2023年５月のCOVID-19の５類移行を目指して、新潟医療圏から全県へかかりつけ医療機関での分娩の実現へ広がっていくことになった。

表２　コロナ妊婦の分娩様式（13例）（新潟市民病院 2022年１月～）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
月	2022.1	2			3		5		6	7	8		2023.2
週数	38	38	39	39	39	39	36	38	38	37	41	39	40
分娩回数	1	2	1	1	4	0	1	2	1	1	2	1	1
分娩様式	帝切	帝切	帝切	帝切	帝切	帝切	帝切	帝切	経腟	帝切	経腟	経腟	経腟
適応	コロナ	胎児機能不全	コロナ	コロナ	コロナ	コロナ	既往	胎児機能不全		既往			
母児の予後	良好												
備考												分娩後陽性	分娩後陽性

表３　コロナ妊婦のかかりつけ施設での分娩に向けた準備等について
新潟県福祉保健部健康づくり支援課 2022年７月

＜かかりつけ医での分娩における課題＞

- クリニックのスタッフが抱く感染への不安（特に付き添う時間が長い助産師など）
- コロナ陽性妊婦以外の妊婦への感染防止対策（クリニック内のゾーニングの必要性）
- 隔離期間中の新生児の取扱い（管理方法など）

＜課題への対応案＞

- クリニックにおけるコロナ陽性妊婦の分娩事例の共有
- 感染症対策の勉強会の開催
- 大学感染管理部、感染管理認定看護師による実地指導（ゾーニング、PPEの脱着など）

新潟医療圏から全県へかかりつけ医療機関での分娩の実現

おわりに

COVID-19が我々に遺したものとして、（１）日常臨床現場でのPPE使用の徹底、（２）残念なことに一部はまだ元に戻らないままであるが、立ち会い分娩、授乳、面会制限などの「人間同士の繋がりの断裂」、（３）上述した第１期から第２期、第２期から第３期への移行期における新潟市産婦人科医会の協力体制のように、相手へのrespectや柔軟性による「病診連携体制維持」が挙げられる。

我々の対応する高度急性期の周産期医療では、COVID-19以外にも守らなければならない大切なものがある、それは、母体と新しい命。

謝辞

多くの皆様のご協力をいただき、誠にありがとうございました。特に、新潟市産婦人科医会、新潟県の関係部署・PCC、新潟市の関係部署・新潟市保健所、新潟市民病院（感染制御室、感染症病棟（４東病棟）、産科病棟コロナ対策室）の皆様に深謝いたします。